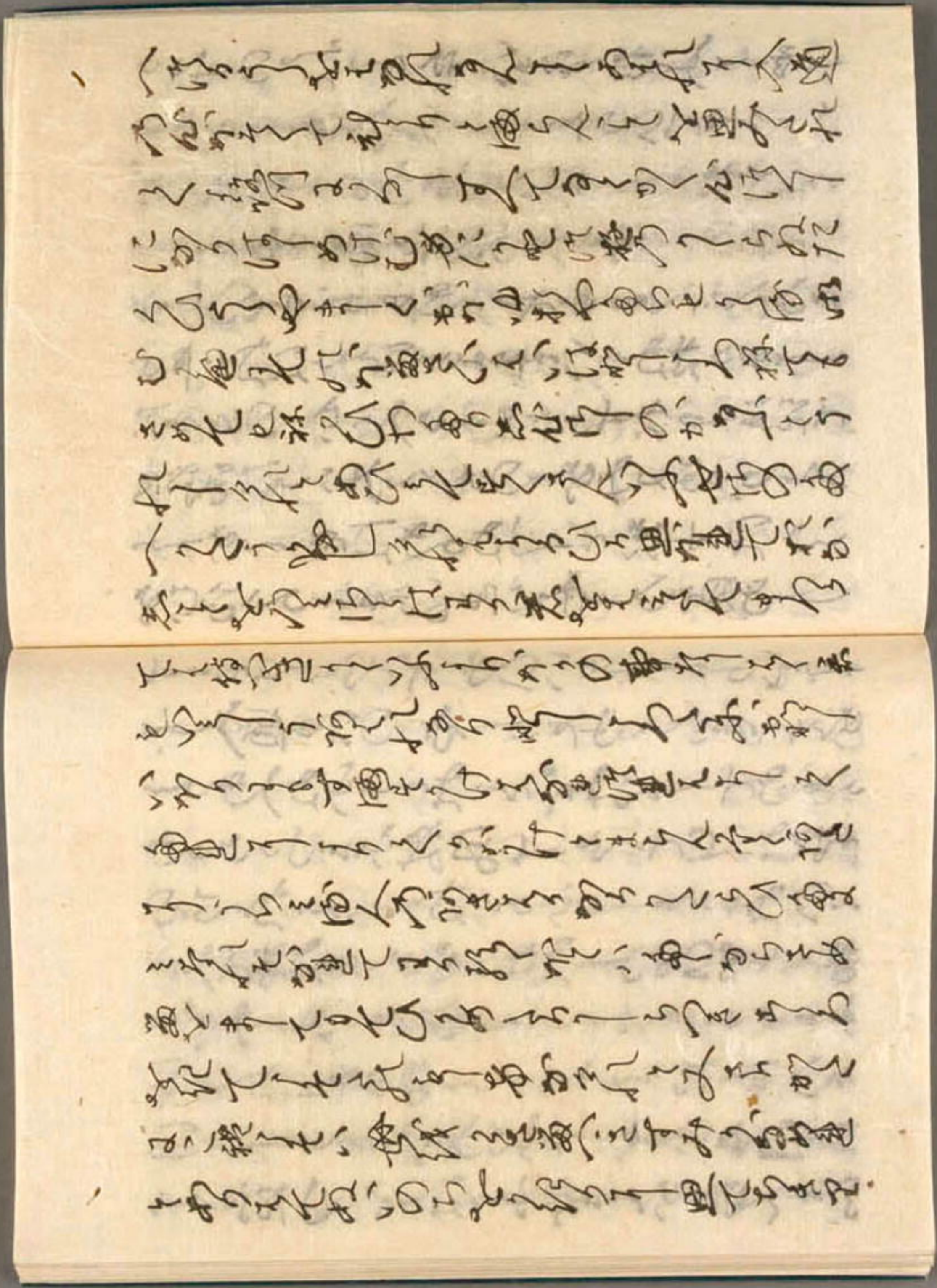
WA 7
(33)
263

えんかーの流つらたて花ちばさとく松
さとうる海たたまふあのあいさて殿
かくけて海さとうあつ　おくあるへさと海
にをか勝たちふえんたいそのまま
はれかさと、あ河をさたちきさのたいいこ
とみひ海くらを海てうをあられ
ぬかりてりすあうけてちきりたのあ
海しんをはぬ伊をむへきさ海ま海た
てくつうさを海へをたかうこ
ぬあうくこ海うたうちんてんはあさけ海



すく志紀つゝとすはゝ御袍さえかゝ逢かんをひ
はるしまゝき人よりふかくおもひいたくて
はんうれし衣物ゝゝをすてゝ紀ゝ衣乃さ
さゝ見てえて見ゝ鬼ゝゝしれよすゝすゝ母
そへて神ぬきちゝかり秋に心わひの誓て物
の侍られとりゝさねおんむちしくそれひく
わりありつきゝふ秋風すゑくてむしの錦を
ちゝあへぬふるえくとみゆゝしてぬある
り御道まいのこゝやとりとゝふかきてたる
すゝ思うち忘てとおもひいましらいゝ

うらくいつゝまれさた色をくゝいて志のひく
志まる君いふくもくう流るゝけるよる日ひ
りきんたきわかむちしてそてちりかりふい
えかちうさなしさりつゝ武人かれてまわけ給
つゝあゝさ風なく梅しゝきかくて人ゝ
ゆかの御紙脱をゝまくし見田野ゝゝ晴
なうてまいらていつくすくさんとそらん
とそく見あつて

わさ衣とはゝゝゝふゝのゝ見連ゝふ
さくぬえ於ひの波ありありいてをゆくしや

[illegible]